

表1 清瀬市の高齢者数及び高齢化率（現在及び将来）

	計	女	男
2010年	18,375人 24.9%	10,525人 27.4%	7,850人 22.1%
2040年	24,167人 38.2%	14,357人 41.4%	9,810人 34.3%

表2 清瀬市の世帯状況（2010年国勢調査）

一般世帯数	30,897世帯
うち高齢夫婦世帯	3,588世帯 11.6%
うち65歳以上単身世帯	3,520世帯 11.4%
小計	7,108世帯 23.0%

資料出所

・表1の2010年データは、同年実施の国勢調査

・表1推計値は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」より清瀬市の推計値。

女性の老後を見据えた生き方

「清瀬は随分お年寄りが多い街」転居時にそう感じたことを鮮明に覚えています。年月を経て、これは清瀬に限ったことではなく、日本中でみられる光景になりました。

2010年10月1日現在の国勢調査によれば清瀬市の高齢者は、女性が男性の1.3倍。高齢化率（人口全体に占める65歳以上の高齢者の割合）は24・9%で、全国平均23%をやや上回っています。

男女別にみると、女性が男性を5ポイント上回り、30年後、女性は2.5人に一人が65歳以上の高齢者と推計されています（表1）。

世帯別の状況では、高齢夫婦世帯（夫65歳以上、妻60歳以上）と65歳以上単身世帯を合わせた高齢者世帯は、ほぼ4世帯に1世帯となっています（表2）。

1950年代の平均寿命は60歳代でしたが、今や、女性の平均寿命は86・41歳（男性は79・94歳）、40年後には90歳を超えることが予測されています。これからは90歳までの老後の時期という、ライフステージと向き合うことになりました。とくに、女性の一人暮らし世帯が増え、さらに増加すると推計されています。そこで問題となるのが老後の生活資金です。「平成25年版男女共同参画白書」によると、公的年金が9割、不足分を貯蓄の取り崩しなどで賄っています。内閣府「高齢者の自立した生活に関する調査」（2010年6月）によると女性単身世帯の年収は180万円未満が半数で、120万円未満が24%近く（男性17%）もいます。夫婦世帯の女性は自分の収入0円が1割、2割が60万円未満と女性の個人収入の少なさが際立っています。

高齢期の収入の男女差の原因は、高齢期になる以前の就業の男女差がスト

レートにそのまま年金額などに反映したもので、高齢女性の貧困という問題につながっています。

介護を必要とする女性高齢者は男性の2.5倍。家族内の主な介護者の7割が女性であり、そのうちの3割強が要介護者の妻が担っています。老老介護の負担が女性に偏っている状況がみえてきます。

介護・看護を理由に離職した完全失業者は、男性はやや増えてきましたが、女性は多いまま推移しています（平成25年版男女共同参画白書）。

虐待の問題も深刻です。虐待を受けた高齢者は75歳以上の女性が大半で、そのうち85%超が虐待者と同居です（厚生労働省2007年調査）。家族も疲弊し、家族による介護の限界も明らかになってきています。介護が必要になっても尊厳ある日々を過ごすためには、介護保険の充実が欠かせません。

老後といかに向き合うかは、若い時から老後を見据え、意識した生き方ができるかどうかに関わります。

一人ひとりが自立して生きることを支えるために、男女の性別役割分担をよりどころとした制度から、個人を単位とする社会保障制度や税制度に変えていくことが、求められているのではないのでしょうか。

（黒澤）

介護の現場から

非常勤で施設介護職員として働く女性、Aさんに話を聞きました。

介護職は介護の最新知識と介護技術に加えて、緊急時の判断には医療知識も必要です。優しい人間性だけでなく、高いコミュニケーション能力も不可欠とされる職業です。しかし賃金は低い「非常勤」や「パートタイム」「委託」など、不安定な雇用形態で働く女性が多い職場でもあります。でも「人の役に立つ仕事をしている」とことは心の支えであり「ありがとう」と感謝してもらえることが何よりうれしい。大変な仕事ではありますが、利用者の方から教えてもらうことや、癒されることもたくさんあります。

介護職は長時間、重労働、重責な仕事なのに、なぜ低賃金で専門職としての社会的地位も低いのでしょうか。その背景には、介護はこれまで嫁や妻、女性が無償で担ってきたことという刷り込まれた意識があるからではないのでしょうか。

高齢者が介護施設で安心して過ごせるためにも、介護職員の労働環境を整ってほしいと思います。

（小松）

